

さわがせ

号数 第 3 3 0 号

発行日 令和 4 年 9 月 1 日

発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011

大阪市西区阿波座 2-2-10

TEL&FAX 06(6541) 6313

mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



第 75 回少年少女全国大会に猛暑の中参加しました (8 月 7 日)

稽古あってのおかげ

教会長 鍵山 公 生

体温を超える炎天下の中、各教会少年少女たちで結成された音楽隊が、全国大会にて演奏され、毎年それぞれ素晴らしい成果を披露されています。

スポーツでも音楽でもその技術を高めるために、相当な稽古を重ねなければ上達しないということは誰でも理解できることです。

さて、お道の信心においても「信心のけいこ」と言われますが、どうすることが稽古になるのでしょうか。

教会にお参りして御祈念をしたり、お結界で仕事のこと、勉強のこと、家庭のこと、あるいは健康のことなどいろいろお届けして、先生から金光様のみ教えを聞かせていただき、信心の仕方や取り組み方をお教えいただいて、そしてそれを実践させていただくのが信心の稽古になると思います。私たちが神様のおかげを受けたということはたくさんありましても、どのようにしておかげを受けたのか。



その道筋や中身を知ることが大切です。

例えば交通事故に遭遇して病院に搬送されます。信心をしている方やその家族は教会へお届けし、無事に治療して早く回復するようお届けされます。先生はその内容をお届け帳に記され、朝となく夜となく、一日も早く回復されるようにと御祈念されます。それも一回だけではなく、毎日毎日その方が回復され、元気な体になって元の仕事に就け、それが後々のおかげになるようにと願われます。

また事故に出会った本人は、運ばれた病院の医師や看護師の努力、手当により治療を受けます。本人は医師のながすままにお任せするしかありません。骨折していれば切開して、その部分を元の形に戻して固定し、縫製されます。また悪化しないように、あるいは痛みの少ないようになど、あれこれ治療していただきます。ところが骨折した部分や皮膚が接着するまでは安静にしているしか手の施しようがありません。医師は「後は日にち薬です」と言われ、骨折の場合は回復するのに2ヶ月や3ヶ月はかかるものです。いくら急いでも早めることができません。

「日にち薬」と言われる時が神様のお働きの時

事故に遭遇したり病気になって、医師の手当や投薬によって回復したということは理解できても、「後は日にち薬です」と言われるのは、医師や看護師のすべきことはしたが、後は自然快癒を待つだけだということです。その自然快癒される道筋こそが、天地金乃神様のお働きの時なのです。神様が体の外部からもお守り下さいますが、体の中に入って、元の体に戻そう、戻そうとしてお働きくださる、絶大なるお働きがあつてこそ回復させていただくのです。

いろいろな難儀に遭遇して、何でこんなことになったのかと考えるときに、自分の失敗を言わずして、相手を悪者にして腹を立て、つい不足が先に出てきます。その不足が悪玉菌となって体を巡り、快復の邪魔をします。日頃から自分が頂いているありがたいことに気づき、感謝する稽古をしていれば、「あの時救急車が都合よく来てくれたから」とか、「良い医師や看護師に恵まれたから早く治療してもらえた」というように、いつもありがたいことに気づき、感謝していると、体の中に善玉菌が増え、それが早く回復する力となるのです。そのことを「おかげは我が心にあり」とおおせられることです。また真の信心をしている方は、ありがたいことを探してでも感謝されます。



難儀に遭遇してもおかげがついてくる

Aさんは新型コロナウイルス感染症のために、遠方に住んでいる娘さんや孫さんに会いたくても会えず、どうしたものかと考えておられました。神様のおかげをいただいて都合が付き、やっと願いが叶いました。ところが娘さんの家へ行ってから、慣れない家の段差につまずき、腕を骨折してしまったのです。せつかく楽しみに

していたのになぜこんなことがと思われたことでしょうか。その娘さんはその時のことを手紙にしてお礼のお届けをして来られました。

「後で考えてみると、骨折した腕は利き腕でなくて良かった。不便はあっても、毎日できることが増えてきて喜んでいきます」と。また「骨折は足でなくて良かった」。「頭を打たなくてよかった」。「家の中での出来事で、家族が側にいたので、すぐ処置することができてよかった」と喜んでいたのです。しかし困ったことが起こりました。

それは、当初搬送された病院ではコロナの影響で手術枠の制限があって、手術はすぐにはできないという話でした。大阪の自宅に戻って手術するにも遠方のため移動も困難で困っていたというのです。ところが娘さんのご主人が医者であったというありがたいご都合をいただいて、その知り合いの紹介を受けて、最近新設されたばかりの病院ですぐ手術を受けることができたのです。

このように神様のご都合をお繰り合わせをいただいて、たくさんのおかげをいただきました。」などと難儀に出会った中で、冷静に考えてみるとありがたいことばかりあったと喜んでおられたのです。

さて「信心のけいこ」とは、おかげをいただいていることに気付かせていただき、ありがたく喜ばせていただくことが肝要なのです。それが信心の命であります。決して神様に対して疑い心を持つてはなりません。「これは神様の尊いお働きだ、もったいないことです」といつもいつも感謝させていただく稽古をさせていただくことです。その心がなければいくら神様に手を合わせて拝んでも、神様に心が通じません。



最初の話に戻りますが、家族の方が教会に回復のお届けをししてもらっても、本人が神様のおかげを頂いたことに気づかず、治った、治ったとそのことしか考えないようでは、めぐり（難儀の元）は積んでも神様のお徳は積めないでしょう。

金光様は「神は平等におかげを授けるが、受けものが悪ければおかげは漏れる」。また「おかげは和賀心（わがこころ）にあり」と仰せになり、何事が起きてもありがたいという信心の稽古をしていけば、またそこから大きなおかげになってくるのです。

さわかぜは、[韃教会ホームページ](https://utubo.konko.info/)からもお読みいただけます。



金光教うつほ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをただかれ、ご参拝下さい。
(9月11日、10月9日ともに午前10時半より)

道の子大会に参加(関西サイクルスポーツセンター)(7月18日)

中近畿教区少年少女会主催、道の子大会が関西サイクルスポーツセンターで開催されました。台風やコロナ禍もあり、4年ぶりに開催され、当教会からは3名が参加しました。変わり種自転車や、立体迷路など、暑い中でしたがそれぞれに楽しみました。



コロナに負けず少年少女全国大会参加

8月6・7日、ご本部において第75回少年少女全国大会が開催されました。ここ2年間はコロナ感染症のため縮小され、鞆教会からの参加は中止していましたが、今年はコロナに負けず、元気を出して参拝のおかげをいただきました。



6日、3台の乗用車に14名が分乗してご本部に向かい、お広前で御祈念をさせていただき、続いて奥城参拝をしました。

木綿崎山での常設行事、ゆうざきランド(アスレチック)にて汗を流し、夕方4時40分の

金光様おひけお見送りをさせていただきました。その後水島のビジネスホテルに移動して、その日の汗を流して休息させていただきました。

翌7日朝ホテルを後にしてご本部へ向かい、10時30分からの「かがやけ大行進」では、それぞれの教会で練習を重ねられたブラスバンド隊や音楽隊などが、本通り、アーケード、本部境内を通り祭場まで行進しました。



鞆教会では中近畿教区から「サマーダンス」とのテーマにより、教会長先生を中心に制作されたお手製の巨大



アゲハチョウやモンシロチョウ、その他たくさんのおちょうやひまわりを持って、楽しく行進しました。多くの観覧者の皆様より拍手喝采をいただきました。

継続登録50年賞状を授与される

韃教会は昭和47年4月にうつぼ少年少女会が結成され、少年少女会連合本部に登録されて、今年は50年になり、連合本部より継続登録50年の賞状をいただきました。

ここにその50年の記録をたどって写真を掲載します。

うつぼ少年少女会
50年の記録



← ↑ 昭和 49 年 8 月



↓ 昭和 57 年 8 月

↑ 昭和 52 年 8 月





←昭和 58 年 8 月

↓平成 5 年 8 月



↑平成 8 年 8 月



平成 15 年 8 月→



↑平成 20 年 8 月



↑平成 21 年 8 月



↑平成 25 年 8 月



↓平成 28 年 8 月



↑平成 29 年 8 月

↓平成 30 年 8 月



9月

- 1 日 (木) 月例祭執行 午後 2 時
- 3 日 (土) 御本部月参拝 午前 6 時出発
- 1 1 日 (日) 月例祭並びに月例霊祭執行
午前 1 0 時 3 0 分
- 1 6 日 (金) 信徒共励会 午前 1 0 時



2 3 日 (祝) 秋季霊祭執行 午後 2 時

祭典後、信徒体験発表

2 5 日 (日) 秋の合同墓前祭 (瓜破霊園にて) 午前 1 0 時

1 0 月

- 1 日 (土) 月例祭執行 午後 2 時
- 9 日 (日) 月例祭並びに月例霊祭執行 午前 1 0 時 3 0 分
- 1 0 日 (月・祝) 御本部 生神金光大神大祭参拝
- 1 5 日 (土) うりわり墓参 午前 7 時
- 1 6 日 (日) 大祭準備大掃除 午前 1 0 時

1 0 月 2 3 日 (日) 午前 10 時 30 分より

生神金光大神大祭奉行

祭典後説教：講師：片江教会長 山田三郎先生

訃 報

●当韃教会責任役員の清水光雄様は、去る令和4年7月5日85歳にてご帰幽になられました。

清水様は昭和11年に神戸で生まれ淡路島で育ち、幼少時に両親が亡くなり、あちこちの親戚の家に預けられ、22歳の頃尼崎の親戚の家を頼って出てこられました。しかし野菜などの行商を始めましたが上手くいかず、借金の返済に苦しみ、幼い2人の子供を抱えて思案に暮れる日々が続きました。



その頃淡路で世話になった姉さんからの葉書に、「大阪に金光教韃教会があるから探してお参りをしなさい」と書かれてあり、昭和35年暮れに初めて韃教会に奥様と参拝されました。その当時和田こゆみ先生がおられ、先生は「ようきた、ようきた」という言葉では言い表せないほどの優しい言葉で迎えられ、いろいろお話をくださり、一心に御祈念してくださいました。そして教会を出るときには苦しい心が晴れ、これから一生懸命頑張らなければという気持ちが湧いてきたそうです。

その後商売のことや、困ったときにお届けをして、金光様のみ教えを受け、先生の生活態度で示してくださった生き方を教わっていきました。

その後次男が生まれ、それぞれ大学卒業まで育てられ、お店の経営をご子息に譲り、歳を重ねても元気いっぱい前向きに取り組んでおられました。

韃教会にあっては月例祭、ご本部月参拝はもとより教会行事に尽力され、信徒総代、責任役員など歴任され、特に勤学祭の喜びの集いにおいて、多くの食材を持参され、参加者に仕入れ値よりも遥かに安く販売され、皆様に喜んでいただくこととされる行いは目を見張るものがありました。

ここ10年近く前より御身優れず、医師の世話になり、後には老人ホームでお過ごしになれましたが、去る7月5日にご帰幽になられ、7月7日、家族葬にて葬儀を仕えられました。告別式には教会長先生並びに若先生が参拝され、教会と信徒会から供花されました。

●小林操様ご主人の茂正様には令和4年6月25日、(御齡75歳)ご帰幽になられ、27日家族葬にて告別式が仕えられました。(本城生子様ご長女)

ご冥福をお祈り申し上げますとともに、御霊様の立ち行きをお祈り申し上げます。

